

# 一般社団法人つながり探究所 2024 年度活動報告

2025 年 5 月 31日

## (1)活動実績

- ・活動回数 163 日
- ・参加者総数 子ども 4,417 人 大人 2,974 人 合計 7,341 人
- ・スタッフ登録人数 28 人・スタッフ延べ活動人数 1,030 人

## (2)寄付支援

認定 NPO 法人フードバンク愛知 認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋 認定 NPO 法人むすびえ 一般社団法人全国食支援活動協力会 守山区社会福祉協議会 あいち子ども食堂ネットワーク 愛知子ども食堂応援ステーション ブイドラッグ バロー 協豊製作所 パナソニックエイジフリー ルクスキャリアセンター 志段味図書館 守山図書館 ボランティアオアシス マルハン 大橋様 餃子の王将 ピザーラ 東海テレビ つなしょ会員のみなさま

## (3)助成実績

- ・名古屋市子ども食堂等運営補助金
- ・令和 6 年度愛知県共同募金会配分金事業
- ・休眠預金事業相談機能付き食支援活動助成
- ・マルト水谷ハッピーリングチャリティ
- ・篠原欣子記念財団フルーツ助成
- ・愛知県自立支援体制確保対策事業費補助金
- ・24 時間テレビチャリティ子ども食堂子どもの居場所支援事業
- ・守山区社協ふれあいいいきサロン助成
- ・ファミリーマート&むすびえ子ども食堂助成第 12 回冬
- ・イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン
- ・愛知県共同募金会（つながりをたやさない社会づくり事業費）
- ・愛知県子ども食堂等推進補助金

## (4)各事業報告

- ・子ども食堂「つな食堂」 開催数 34 回 参加者数 1,362 人  
大人 295 人 子ども 1,067 人

ピザーラ大森店からピザの提供を受けて、始業式、終業式に子ども食堂を開催。7 月には、

どなたでもどうぞとしたところ、100人を超える子どもたちが来てしまい、暑さで熱中症の危険も心配しつつの開催となった。そのため、「自分の足で来ることができる子ども。自分で後片付けができる子ども。」と限定したところ、つなしょの受け入れ人数に見合う参加者となった。長期休暇には、つなしょ開所日にお昼ごはんの提供（100円）、始業式終業式がない月には、持ち帰りのおかずを作り提供した。また、中高生向けに、中間テスト前の勉強会を兼ねて、ティーパーティを開催。中高生の時間も作り、年齢に応じた居場所を作った。子ども同士が学校で約束をして参加することがコロナ以降当たり前になったのは、今年度からであり、子ども食堂は再スタートしたともいえる。

・つなしょ喫茶（新規事業） 開催数 109回 参加者数 900人  
大人 468人 子ども 323人（延べ）

スタッフ間で話し合い、近隣の高齢者や未就園児の親子、不登校の子どもを視野に入れた喫茶をスタートした。最初は、コストコのパンを使い、ホットサンドを調理して提供を始めた。コストコパンの受取時間等や、参加者の嗜好を考慮してメニューを変更。フードロスの食材などを活用して、定食を提供したところ近隣の一人暮らし高齢者が毎回待ち合わせをして食事をするようになった。生活困窮により、食材を受け取りに来た方にも無償で提供するなど、手作りの食事を提供した。少し気になる高齢者を、見つけやすく継続した見守りにもつなげている。団地の中で孤立している高齢者が、つなしょの賑わいを見て一緒に時間を過ごすことができているのは、新たなスタッフや遊びに来る子どもたちとの相乗効果が大きい。夏場はかき氷フリーパス券を販売し、来る人が熱中症で倒れないように工夫した。保育園帰りの子どもたちと小中学生の異年齢交流の機会になっており、子育て世代がホッとできる場作りが定着した。

・おもちゃ図書館「つなとしょ」 開催数 12回

志段味図書館での月に1回開催が定着している。口コミで、参加する親子連れが増えている。スタッフも新たに2名増えた。人気の自販機おもちゃを増やした。図書館へ返却ができない方には、つなしょを広報して返却してもらうようにしている。その結果、おもちゃ図書館とつなしょを両方利用する親子が増えている。

・フードパントリー「食べ物おすそ分けの会」

配布 1トン4,500キロ 回数 293回 支援団体数 160団体（のべ）  
利用者数 2,837人

コストコのパン量は、変化するものの会員に安定して渡すことができている。今年度は、会員更新時にお米券を10キロ渡しており、米を必要としている会員へのニーズにも応え

ることができた。その後すぐ米の価格高騰により、お米券の引換えを先延ばしにしていた方については、生活用品を配布した。倉庫は、室外気温 25℃を超えると、エアコンを稼働させ食品の低温保管に努めた。食品入出担当者を配置して、食のトレーサビリティを守るために、受け取り団体には報告フォームを作成して、活用内容の情報収集を行った。寄付品入出ファイルを作成し、担当者が記録し集計するしくみを構築した。志段味図書館、バロー、ブイドラッグからのフードドライブ寄付や、マルハンや協豊製作所その他企業からの食材等寄付により、必要とする方へ届ける仕組みが充実しつつある。また、ルールに理解して行動する方も増えており、食材を通じたつながりが生まれている。

#### ・食を活用した支援を行いたい団体への中間支援（新規事業）

相談件数 426 件 支援団体数 138 団体

個別支援等の相談を受けた団体 13 団体 つながっている世帯 2,456 世帯(のべ)

全国的に、フードバンクへの寄付食材は減少しているが、つながり探究所への食材寄付は、増えており他団体へも渡せる量を確保できた。また、休眠預金活用助成事業からの支援を受け、食材を購入することができたため、守山区社会福祉協議会重層的相談支援事業の拠点倉庫として借り受けて食材を保管した。これにより、安定して他団体へ食材提供できる場所を作り、食を活用した相談支援を行いたい団体へ対し、支援できる環境が整った。また、他区市町村の支援団体と連携を図るために、子ども食堂連絡会や重層的相談支援事業会議等を通して事業説明会を行い、食で支える支援のネットワーク構築に向けて取り組んだ。助成期間終了後も、支援団体からの相談や食材支援の連絡は増えている。

#### ・生活困窮者、外国人支援

イスラム文化の方を支援するために、多くの方にハラールを知っていただくために、「女性とイスラームの会」協力のもとハラールとビーガン、ベジタリアンのパンフレットを作成し、関係機関や、子ども食堂等の会議の際に広報を行った。他府県でも、このようなパンフレットを作成しているところはないらしく、外国人世帯が多い区の子育て支援団体等が興味を持ってくれた。これまでつながった外国人世帯については、つながり続ける支援を継続しており、食材を郵送したりつなしょで子どもの成長を見守ったりしている。生活困窮者の相談も増えている。以前に比べ、社会福祉協議会や相談支援事業所等からの相談事例の方が増えている。支援を始めようと思った矢先に、他界してしまう事例があり、やり切れない思いに絶望を感じた。つなしょの存在意義も考えたが、これまでの経験と連携実績から今後の方針などを一緒に考えていただく機会を作っていただき、つなしょが行う支援方法についてスタッフ間で共有する機会にもなった。

・小幡緑地まつり 2024年 11月30日 小幡緑地本園にて

チラシのデザイン印刷を担当し、小幡緑地管理事務所と連携してまつりの運営を行った。今年度は、これまで改装工事等により自粛していた、冒険遊び場をオバッタベッタヤネル内でブースを作り子どもたちの自由な遊びの機会を提供した。つながり探究所の原点である冒険遊び場を知らないスタッフもあったため、スタッフ研修にもなった。また、コロナ禍に出産した親は、冒険遊び場の存在を知らない方も多く、遊び方に戸惑いながらも異年齢が遊ぶ機会にもつながった。冒険遊び場に興味を持った会員やスタッフがあったため、小幡緑地管理事務所の協力もあり、4月から月に2回木曜日に冒険遊び場を復活させることができた。子どもたちや学校への周知はまだ課題であるが、復活できたことは大きな強みでもあり、法人の自信につながった。

全体を通して

休眠預金活用助成事業に採択されたことにより、スタッフが増え、役割分担ができ法人の仕組みが構築できた年になった。これまで、整備できていなかったガバナンスコンプライアンスが構築できた。それに伴い、スタッフの意識も向上し、これまで以上に飛躍した年となった。理事は、責任と義務に押しつぶされそうになったこともあったが、多くの方がつながり探究所の運営に関わり、応援してくださったおかげで関係機関との連携も増え、会員等にも仕組みが定着した。ホームページやPR動画も完成した。

週4日を開設目標としていたが、スタッフの確保や交代時間や事務時間を考えると週3日開設にとどまった。今後の反省すべき点やがんばった点を来年度に活かしていきたい。